

冬場に気をつけたい感染症



感染性胃腸炎

★登園時に、乳児部は「登園届」、幼児部は「出席停止解除願い」が必要です。

原因

「感染性胃腸炎」といっても、その原因は様々です。11月～3月頃に多く見られます。

- ・細菌性では腸炎ピブリオ、病原性大腸菌、サルモネラ、カンピロバクターなど
- ・ウイルス性ではSRSV（小型球形ウイルス=ノロウイルス）、ロタウイルス、腸管アデノウイルスなど
- ・寄生虫ではクリプトスポリジウム、アメーバ、ランブル鞭毛虫^{へんもうちゅう}など

★石けんを使った手洗いや、生活リズムを整えて体力をつけること、
感染した患者との、濃厚な接触を避けることが、予防につながります。★

症状

「吐き気・嘔吐^{おうと}・下痢^{げり}・腹痛^{ふくつう}・37℃台の発熱」

- ・嘔吐や下痢に伴う脱水症状（皮膚・くちびるの乾燥や、おしっこの減少に注意しましょう）
うんちの状態は、軟便から水様便まで程度によって様々です。

★ロタウイルスの場合は3歳未満に、米のとぎ汁のような白色の便が出ることがあります。

★ノロウイルスはすべての年齢で症状が見られます。

★感染から症状が現れるまで、1～2日間の潜伏期間^{せんぷく}があります。

登園は、医師において感染のおそれがないと認めるまで出席停止です。

ここに注意!!



感染者の便や吐いたものにはウイルスが含まれ、他の人への感染源になるので、
正しく処理することが大切です。

■家庭でのケア■

嘔吐や下痢が続くため脱水症状を起こさないように注意が必要ですが、嘔吐が落ち着く前に水分を与えてしまうと、すぐに戻ってしまうので、吐き気がおさまってきたら様子を見て、少しずつ与えていきます。

また、嘔吐物の処理をする場合には、感染力が強いので嘔吐物やおむつの処理などには、使い捨て用のマスク、手袋を使います。嘔吐物は、塩素系の消毒剤を使用し、ペーパータオルなどで速やかにふき取ります。ビニール袋に密閉して、処理をしましょう。その後、十分に手洗い、うがいを行います。



塩素系漂白剤を使うので、窓を開け、十分に換気^{かんき}をしながら処理しましょう。

吐いたものや汚れた衣類を処理するには



- ペーパータオル（汚物を拭きとる。他に新聞紙、トイレットペーパーなど）
- ビニール袋（大きめ）2枚
- 使い捨てのビニール手袋、マスク、エプロン
- ペットボトル（500ml用意）
- 塩素系消毒剤
- バケツ

消毒液の作り方

消毒液A 【吐いたものの処理に使用】

濃度 0.1% (1000ppm)

500mlのペットボトル1本分の水に、
ペットボトルのキャップ2杯（10ml）の
塩素系漂白剤の原液を入れる。



消毒液B 【汚れた衣類の消毒に使用】

濃度 0.02% (200 ppm)

500mlのペットボトル1本分の水に、
ペットボトルのキャップ半分弱の
塩素系漂白剤の原液を入れる。

汚れた衣類の消毒（消毒液B参照）

- ・消毒液Bに30～60分間浸す。塩素で漂白できないものは、85℃で1分間以上熱湯消毒します。
- ・他のものと分けて、最後に洗濯します。



★★QRコードに厚生労働省の塩素消毒の方法があります。
「冬は特にご注意！ノロウイルスによる食中毒」を、
参考にしてください。★★

何かありましたら、看護師佐藤までご相談ください。

出典・参考文献・引用文献 日本学校保健研修社・少年写真新聞社刊

